Q

熱が出たときの解熱剤を与えるタイミングがわかりません。どんなときに使うんですか。

（初めての熱に戸惑う母）

A

子供さんは高熱なのに元気だったり、元気だと思っていたら急にぐったりして高熱が出ていたりします。解熱剤を使用するタイミングは難しいようです。ご質問に答える前に発熱について少しお話しましょう。

発熱とは：子供の発熱とは腋の下や鼓膜（ミミッピ）で測って37.5度以上をいいます。また一般的に夏や夕方が冬や朝より0.5度ぐらい高くなることが普通です。したがって夏の夕方では健康であっても37.5度以上になることもあります。高熱とは38.5度以上をいいます。

発熱の原因：発熱とは体の炎症により免疫細胞（リンパ球や単球）から出される発熱物質（サイトカインといいます。IL6やインターフェロン等があります。）が頭の中にある視床下部の発熱中枢に影響をあたえて、筋肉などが収縮して熱が産生されます。サイトカインを産生する炎症とはなんでしょう。一般的には細菌やウイルスによる感染症です。その他川崎病やリュウマチ熱、白血病や癌なども含まれます。熱は炎症の結果として現れるもので、熱そのものが病気と闘っているわけではありません。熱がでて苦しいのであれば解熱剤を使用してあげてください。熱を下げても病気が長びく（免疫力がおちる）訳ではありません。

解熱剤の使用法：使用するのは6歳以下では38.5℃以上で本人が辛そうな時です。たとえ38.5℃以上でも使用しなくていいのは、食欲がある、機嫌もよい。おもちゃで遊んでいる、お母さんとアイコンタクトができる状態の時です。39℃を超えていても解熱剤を使用しなくて大丈夫なお子さんもいます。使用間隔は最低6時間、できたら8時間以上のです。15kg以上では経口の解熱剤、15kg以下では座薬が便利です。

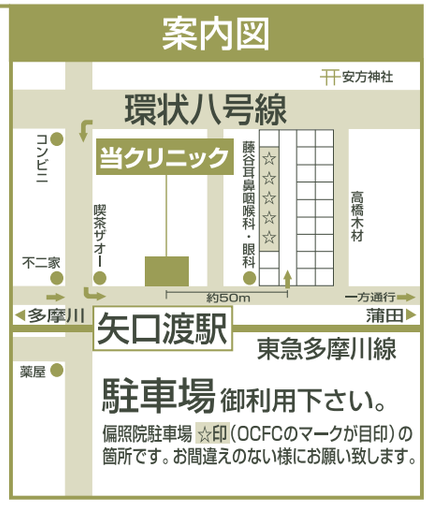
こどもに安全な解熱剤：子供に安全な解熱剤はアセトアミノフェンです。学童以上ではイブプロフェンでもいいでしょう。アセトアミノフェンの一般名はカロナール、ピリナジン、アンヒバ、アルピーニ等です。解熱剤は熱が高い時だけに服用してください。1日3回のお薬に混ぜたり、抗生剤に混ぜたものを飲んではいけません。小児用PLやポンタールシロップの使用は避けましょう。

発熱時の注意：人の体は水冷式。水分の補給は十分にしてください。体を冷やすのも効果的です。額だけではなく腋の下なども冷やすポイントです。OCFCでは赤ちゃん用の腋の下を冷やす「わきアイス」をおわけしています。

熱は上昇している時が苦しいものです。熱を下げても、病気が治っていないと上がります。このときに時として熱性けいれんをおこすこともあります。安易に解熱剤を使用しない方がいいでしょう。でもつらそうなときはお使いください。そう、使用基準はお子さんの状態です。

（OCFC院長）

医療法人社団 オー・シー・エフ・シー（OCFC）会
OCFC
Okawa Children & Family Clinic
大川こども&内科クリニック
小児科・内科・アレルギー科（併設 病児保育室 うさぎのママ）
東京都大田区多摩川1-6-16
院長　大川　洋二
診療時間:月～金　午前 8:30～12:00　午後 2:00～6:00
土　午前 8:30～12:00　午後 1:00～3:00
（日曜・祝日休診）　駐車場七台あり
予約専用 03-3758-0099　代表番号 03-3758-0920
E-mail: info@ocfc.jp　URL: http://www.ocfc.jp
うさぎのママ お問い合わせ
直通電話 03-3758-0066　E-mail: usagimama@ocfc.jp



東急多摩川線矢口渡駅前

OCFC NEWS

2006年 9月15日号　Vol.28

大川こども&内科クリニック

インフルエンザワクチン接種中です

OCFCでは今年も例年どおりインフルエンザワクチンの接種を行います。ワクチンは水銀を含まないタイプと含むタイプの2種類、接種日は12月31日を除くすべての診療日です。土曜日午後、日曜・祭日午前中も行います。

〔費　用〕

- ●チメロサールフリーインフルエンザワクチン（水銀を含まないワクチン）
  ☆1回目：3,000円、　☆2回目：2,000円
- ●チメロサール低濃度含有インフルエンザワクチン
  ☆1回：2,000円
  （従来型、一般に使われているワクチンです）

費用は問診、診察、消費税を含みます。
高齢者インフルエンザ予防接種予診票御使用になれます。

チメロサールフリーワクチンは乳幼児、小児及び妊娠可能な女性に安心して接種できるワクチンです。チメロサール低含有インフルエンザワクチンは安全性、経済性から中高年の方には適したワクチンでしょう。

OCFCでは4ヶ月以上の乳児からインフルエンザワクチンを勧めております。インフルエンザワクチンは不活化ワクチンであり、ワクチンにより発病する心配はありません。したがって発熱がなければ、多少咳や鼻水があっても接種可能です。妊娠中の女性でも安全です。むしろお腹の赤ちゃんをインフルエンザから守る唯一の方法ですのでお薦めします。

インフルエンザワクチンはすべての方に推薦できますが、以下の方は必ず接種してください。

インフルエンザワクチン接種対象者

【1】インフルエンザ感染により重大な合併症を起こす可能性のあるハイリスクグループ
- a. 6ヶ月から23ヶ月までの乳幼児
- b. 65歳以上の方
- c. 養護ホーム、長期療養施設入所者
- d. インフルエンザシーズン（12月から3月）に妊娠している可能性のある女性
- e. 肺・心血管系の慢性疾患を有する成人・小児、気管支喘息の小児
- f. 糖尿病を含む慢性代謝性疾患、腎不全、免疫抑制状態にある方
- g. 長期アスピリン治療を受けている生後6ヶ月から18歳の方

アメリカのCDCは次の方も接種を義務づけています。
- h. 6ヶ月以下の乳児を預かる施設勤務者

【2】ハイリスクグループにインフルエンザをうつす可能性のあるグループ
- a. 病院関係者
- b. 養護ホーム、長期療養施設勤務者
- c. 訪問看護等でハイリスクグループの方にケアサービスをする方
- d. 小児を含むハイリスク群の家族

【3】次に接種を勧める方
- a. 乳　児
  どの月令からも可能。一歳以下で安全に使用できるインフルエンザ治療薬がないことから全ての乳児に勧めています。
- b. 妊　婦
  妊娠中のどの時期でも安全に接種できる。予定日が流行期に含まれる（12月から3月）妊婦は接種が望まれる。（流産の恐れがあることから妊娠3ヶ月未満では接種を勧めないという考え方もあります）
- c. 寮などで団体生活をしている方。

OCFC INFORMATION

感染症だより

●夏風邪大流行　8月には峠を越す

今年猛威をふるい、過去10年で最大の流行であった夏風邪は8月に入って峠を越したようです。アデノウイルスでは5月、6月と150名を越えていた感染者は7月136名、8月は74名と減少しました。夏休みによる接触機会の減少が流行を阻止したようです。アデノウイルス感染症には症状により咽頭結膜炎（プール熱）、流行性角結膜炎、滲出性扁桃炎、咽頭炎などがあります。塩素の濃度が十分でないプールではアデノウイルスは1週間程度生存し感染の原因となります。それでプール熱という名前がつきましたが、プールでしかうつらないわけではありません。今年はアデノウイルスの1,2,3,6型が流行しましたが、特に1型と2型が多いようでした。それで今年アデノウイルスに2回かかった方も多いようです。

ヘルパンギーナ、手足口病はエンテロウイルス属というお腹の中で増えるウイルスによって感染します。コクサッキーウイルスやエコーウイルス、エンテロウイルスが具体的な名前です。ヘルパンギーナは7月125名と最大の患者数を示しましたが、8月は急速に減少して35名でした。手足口病は今年は大規模な流行はなく7月、8月で20名でした。今年のヘルパンギーナはコクサッキウイルスを中心に4種類、手足口病はエンテロウイルス71とエコーウイルスの2種類の流行です。

●マイコプラズマ肺炎も大流行

マイコプラズマ肺炎の流行がとまりません。家族ぐるみ、会社ぐるみでの流行が特徴です。これは暑いために部屋を締め切り、換気をなくして冷房をつけてるためでしょう。今年の夏、アレルギー素因がない方で咳が長引いている方はマイコプラズマ肺炎の可能性があります。7月は2名でしたが8月は19名に増加しました。この数は抗体を測定して確認した患者数です。その実数は10倍ぐらいあるでしょう。問題はマイコプラズマに効果的な薬剤が不味いか、子どもには適していない点です。それでも最近の薬剤は少しずつ美味しくなってきました。がんばって服用してください。どうしても飲めない子どもには胃チューブで直接投与することもできます。マイコプラズマの迅速検査法は採血して行います。OCFCでは現在他の迅速検査法と同じように、咽頭の検査より診断できる検査法の開発に協力しております。来年には試験的に検査が行われるかもしれません。

●溶連菌　まだまだ流行中です

溶連菌感染症は5月、6月では毎月50名前後でしたが、7月は24名、8月は26名でした。半減したからとはいえまだまだ流行中です。繰り返えして感染を起こす方も少なくありません。溶連菌は細菌感染症なので、ウイルス性疾患のように1回罹れば免疫がつくというものではありません。抗生剤による治療が必要なのです。このとき抗菌力が強く、またいろいろな細菌に効果的なセフェム系の抗生剤を使用すると、からだの細菌は全て死滅して、下痢がおこったり、免疫力が低下します。OCFCでは比較的溶連菌に限定して効果のあるペニシリン系の抗生剤を優先的に使用しています。この薬は1日に4回服用します。面倒のようですが、子どもにとって一番優しい薬なので頑張ってください。繰り返えして溶連菌に罹るときは、溶連菌以外に原因細菌が混在していることが多いようです。この時は咽頭の細菌の検査をして、効果的な抗生剤（セフェム系の抗生剤であることもあります）を使用します。

●感染性胃腸炎は減少中。でも海外渡航では気をつけて

感染性胃腸炎は7月105名、8月84名と減少していますが、病気の原因としては依然1,2番の頻度です。ロタウイルスが完全に消えて、ノロウイルスやアデノウイルスによるものです。アデノウイルスでは症状が2週間ほど続きます。乳児では2次性乳糖不耐症になって下痢が次の下痢の原因となります。この場合はミルクを乳糖が含まれていないものに変えるか、乳糖分解酵素であるミルラクトを授乳の前に飲ませるかします。海外からの帰国直後の下痢にはお気をつけてください。病原性大腸菌（O157等）や場合によってはコレラ菌であることもあります。抗生剤を使用したほうがよいときもあります。

●その他の感染症

流行性耳下腺炎は7月13名、8月11名、水痘は7月7名、8月8名と減少しました。伝染性紅班（リンゴ病）は7月15名、8月3名でした。千葉、茨城で発症した麻疹は東京には拡がらなかったようです。麻疹、風疹ともに患者さんはいらっしゃいません。7月末に来院された方が肺結核でした。東邦大学経由で結核の専門病院に入院されました。

1口メモ　**2次性乳糖不耐症**：乳糖分解酵素がなくて下痢や糖分の吸収ができないのを乳糖不耐症といいます。この酵素は小腸の粘膜上皮にあります。下痢によりこの酵素がなくなり、下痢が長期に続くことを2次性乳糖不耐症といいます。ちなみに成人ではこの酵素の活性が低下しているために牛乳や粉ミルクを飲むと下痢になりやすくなる人もいます。

病診連携

7月、8月の検査紹介は10名、外来紹介は53名、入院は7名、患者受け入れは2名でした。検査では頭痛の精査で東邦大学放射線科に4名、心エコー、脳波検査で東京医科歯科大学小児科に6名でした。入院は乳児の肺炎で東邦大学小児科、社会保険蒲田総合病院小児科、昭和大学小児科に依頼しました。日赤医療センター小児科には、尿路感染症と川崎病を紹介しています。内科では東邦大学へ肝機能障害の患者さんと肺炎の患者さんをお願いしました。肝機能障害の患者さんは伝染性単核球症でした。肺炎の方は肺結核で入院となりました。流行性耳下腺炎の疑いで様子を見ていた患者さんは東邦の救急外来を受診されて、川崎病の診断で入院となっております。入院された患者さんは肺結核の方を除きそれぞれ元気に退院されています。

うさぎのママだより

うさぎのママご利用の皆様は7月95名、稼働率は103%、キャンセル率は31%、8月はそれぞれ82名、87.2%、39%でした。うさぎのママでは皆様のご要望に答えるために、来年度から定員8名にする計画を立てています。採算性のない部門の拡充なので経済的な負担が増します。そこで大田区に助成を現在の4名から6名に増やしてもらうようお願いをする予定です。皆様の署名をお願いいたします。

処置室から

処置室には7月1090名、8月764名の方が訪れました。鼻吸引がもっとも多く440名、ついで採血検査331名、検尿291名でした。季節柄アデノウイルス検査は165名、溶連菌検査は139名です。点滴は7月46名、8月54名と減少しています。その外、薬の飲み方、座薬挿入や、軟膏の塗布、傷口の処置などお母さんが自信のないこともお手伝いしています。

診療時間

栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
大田区の各種健康診査は火・木・金の午後2:00～4:00にお越し下さい。検査希望の方は代表電話にて直接予約して下さい。

曜 日	8:30～12:00	14:00～16:00	16:00～18:00
月	小児科・内科（院長・三宅）	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科（院長・佐々木）
火	小児科・内科（院長）	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科（院長）
水	小児科（院長）	乳健・予接・ア・慢	小児科（富沢）
	内科・循環器（弓場）	1・3・5 水　じっくり外来（院長）	
木	小児科・内科（院長）	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科（院長）
金	小児科・内科（院長）	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科（院長）
土	小児科・内科（院長・荒木）	乳健・予接（1時～2時）	小児科（荒木:2時～3時）
	神経外来（荒木）	じっくり外来（院長:不定期）	
	発達心理（藤本）	栄養相談（関）（乳幼児、生活習慣病）	
	2・4土 アレルギー（大柴）		
日曜・祝日	9時～12時　休日診療・予接（院長・荒木・佐々木）		

乳健：乳児健診、**予接**：予防接種、**ア**：アレルギー疾患　**慢**：慢性疾患　**栄養相談の予約**：代表電話で直接予約下さい。
●毎週日曜日午前予防接種しております（要予約）　●土曜日のじっくり外来の予定は受付またはホームページでご確認ください。

■電話・インターネット予約サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	3種混合	21#	水痘	26#
内科一般	12#	健康診断	17#	2種混合	22#	おたふくかぜ	27#
アレルギー/慢性疾患	13#	インフルエンザ	19#	麻疹	23#	日本脳炎	28#
隔離感染症	14#	確認	20#	風疹	24#	その他	29#
予防接種	15#	取消	30#	インフルエンザ	25#	MR	31#

※予約の空き情報は40#でご案内いたします。予防接種（15#）を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。
サービスコードの確認を、よろしければ 0# 誤っていれば 1# で行って下さい。
※インフルエンザの予約は予防接種枠で希望される方は15#をプッシュして25#をおします。
一般診療枠、日曜・休日で接種を希望される方は19#をおしてください。

院内設備・機器

院内設備：隔離感染症室、電話自動予約機（24時間対応）、空気清浄装置（臓器移植にも対応できる）（3台）
オゾン空気清浄・防臭装置（2台）、電解水発生装置、消毒用専用スプライザー
検査機器：レントゲン装置、自動解析装置付心電計、血球分析器、CRP/ASO測定機、検尿器、
電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、
パルスオキシメーター2001、聴力検査機器、心電図モニター、チンパノメトリー、アトムネオテーブル